本模擬問題における問題等の著作権はすべて東京CPA会計学院に帰属します。無断転載・二次利用は固く禁止いたします。

第４問（20点）

中野製作所（本社東京都）は熊本市に工場をもっており、本社会計から工場会計を独立させている。

［資料］

① 材料の発注、製品の受注はすべて本社が行っている。ただし、発注した材料は工場へ直接納入される。

② 材料購入代金の支払いをはじめ、すべての支払関係は本社が行っている。

③ 完成した製品は、いったん工場内の製品倉庫にて保管され、品質検査後に得意先へ直接納品される。

④ 固定資産の管理は本社が一括して行っており、工場の総勘定元帳に固定資産および減価償却累計額の勘定は設定されていない。

下記の(1)～(6)は、当製作所の当月におけるすべての取引である。この場合、工場の総勘定元帳における本社勘定の勘定記入面を示しなさい（本社勘定の前月繰越は存在しない）。なお、勘定記入に用いる勘定科目は、次の中から最も適当なものを選ぶこと（以下の中には不要なものも含まれている）。ただし、すべての空欄が埋まるとは限らない。

減価償却累計額	売上原価	月次損益	売上	買掛金
現金	製品	賃金	売掛金	工場
減価償却費	製造間接費配賦差異	その他の経費	原価差異	材料

(1) 材料 800,000 円を掛けにて購入し、当該材料が工場の材料倉庫に納入された。工場ではこれを直ちに製品製造のために消費した。なお、月初・月末に材料在庫は存在しない。

(2) 製品製造を行っている直接工に対して 600,000 円、間接工に対して 420,000 円の賃金を現金で支払った。なお、給与計算期間と原価計算期間は一致している。直接作業時間は 1,350 時間である。

(3) 工場において、当月の製造間接費を予定配賦した。なお、予定配賦率は 600 円/時間（直接作業時間を基準に配賦する）であり、実際発生額は次のとおりである。その他の経費の未払いは存在しない。

① 減価償却費：250,000 円　　② その他の経費：150,000 円

(4) 製品 2,210,000 円が完成し、製品倉庫に保管された。

(5) 製品検査が完了し、問題がなかったため、(4)で完成した製品が得意先へ代金を掛けとして納品された。なお、本社では製品原価に 20%の利益を付した金額を販売価格としており、売上原価の計上は販売時に本社側で行われるが、製品勘定は工場に設けられている。

(6) 工場において、純損益は生じないものの、上記資料から計算できる原価差異が生じているため、当該原価差異（原価差異勘定で処理されている）を本社勘定へ振り替えた。

禁無断複写・無断転載

第５問（20 点）

当工場では、第１工程と第２工程を経て、製品Ｘを連続生産している。

原価部門には、製造部門である第１工程と第２工程、補助部門である動力部門と工場事務部門がある。次の［**資料**］にもとづいて、以下の問に答えなさい。

問１　補助部門費を製造部門に、相互配賦法（簡便法）により配賦した場合の、第１工程および第２工程勘定で認識される配賦差異を答案用紙の形式に沿って答えなさい。

問２　第１工程月末仕掛品原価、第２工程月末仕掛品原価および第２工程完成品総合原価を求めなさい。

［資料］

(1)　各部門に集計された製造間接費（補助部門費配賦前）は次の中から適切なものを選ぶこと。

第１工程 116,000 円　　第２工程 93,000 円　　動力部門 45,000 円　　工場事務部門 36,000 円

(2)　補助部門費の製造部門への配賦基準は以下のとおりである。

配賦基準	第１工程	第２工程	動力部門	工場事務部門
従業員数	50 人	40 人	10 人	―
動力消費量	700kwh	500kwh	100kwh	300kwh

(3)　製造間接費は、直接作業時間を配賦基準として予定配賦している。各工程の予定配賦率は、第１工程 660 円／時間、第２工程 640 円／時間である。

(4)　直接作業時間は第１工程 250 時間、第２工程 200 時間であった。当社は予算の設定方法として固定予算を採用している。なお、年間直接作業時間は第１工程 2,940 時間、第２工程 2,520 時間である。

(5)　製品Ｘの生産データは次のとおりである。なお、原料は第１工程の始点でのみ　投入され、第１工程完成品はすべて第２工程に振り替えられる。

第１工程　完　成　品　5,000 個　月初仕掛品　1,500 個（60%）　月末仕掛品　800 個（50%）

第２工程　完　成　品　4,600 個　月初仕掛品　1,000 個（70%）　月末仕掛品　1,200 個（80%）

仕　損　品　200 個（工程の途中点で発見された）

(6)　仕損費の負担計算は、度外視法によること。なお、月末仕掛品の評価方法は先入先出法による。

(7)　月初仕掛品原価は次のとおりである。

第１工程　直接材料費 180,000 円　加工費 102,000 円

第２工程　前 工 程 費 192,000 円　加工費　59,500 円

(8)　当月製造費用は次のとおりである。

第１工程　直接材料費 430,000 円　加工費（製造間接費をのぞく）195,000 円

第２工程　前 工 程 費　　？　円　加工費（製造間接費をのぞく）285,100 円